

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH WEEKLY



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 63-1151

会長：越野 民男 幹事：浅田 豊久

情報委員長：清水 忠

1975・11月27日

第54号

“ポール・ハリスの原点にかえろう”

第361地区ガバナー

中田 清兵衛氏



ロータリーの奉仕が、他の団体の奉仕と異なる根本的特質はどこにあるのだろうか。

ポール・ハリスは1905年にロータリーを創始した。その18年後のRIセントルイス大会では、ロータリー活動の本質が金銭的奉仕ではなくて精神的奉仕であり、団体的奉仕ではなくて個人的奉仕の集積であることを明確に宣言している。

私たちはこの原点をじっくりと見なおさねばならない。

公園にベンチを寄附したり、交通整理に力をかけたり、植樹運動に懸命になることは、ロータリーの奉仕ではない。

その前にまず、自分の家庭の台所の下水をきれいにしているか、自分の車の排気ガスに気を配っているか、自分の子や孫の教育に意を用いているか——いふなれば一人一人が私生活において奉仕の精神に徹しているかロータリアンは深く反省しなければならない。

そうでない限り、膨湃として高まる他の団体の勢力拡大の中で、ロータリーは埋没し崩壊に向って転落することになるだろう。

—金沢北RCガバナー公式訪問より— (文責 清水 忠)



卯辰山碑林散歩 (26)

—開発文七窯趾碑—

開発文七は、金沢に生れ、理髪師から一念発起して抹茶碗の制作に志し、文七焼と称して楽焼に辰砂の秘色を出すこと成功した。

窯趾碑には

“親を思う心ばかりで不幸なり

趣味に凝りし阿呆の文七、とある。

昭和46年没。

ガバナー公式訪問における 会長幹事懇談会およびクラブ協議会

ガバナーを囲んでの会長、幹事懇談会についての概要は次の通り。

ガバナーが本年6月、ボカラートンにおける国際協議会に参加し、その8日間を通じてのロータリークラブの活動計画の協議並に運営に関する教育を受け地区クラブへの指導と助言が、この公式訪問の目的であるが、中田ガバナーは終始、70年前、アメリカ・シカゴでポール・ハリスが奉仕の精神によって人の和をはかることこそ、よりよい社会をつくり出す道であるとのロータリーの本質と理念についての力強いお話があり一同深い感銘を覚えました。

以下「クラブ計画及び目標の要約」に基づいて逐次丁寧なる指導があり項目毎に、特に今後の重要な考え方の基礎となる点について以下記述いたします。



- ①**会員増強計画指針について** この項目の内、特に新入会員へのロータリー教育並びにクラブへの同化については推せん会員の同化、教育に対する責任並びにR Iの方針としてロータリー活動に対する家族の協力が必要という考え方にたつて年4~6回家族同伴の炉辺会談が望ましい。
- ②**新クラブ結成について** 無理をせずに目標を定めて十分に計画を練ることが必要である。
- ③**クラブ奉仕について** 会員増強は特に慎重に行い、数よりも質的問題を重視する必要がある。クラブ会報は簡素に毎週を希望する。

亦「ザ・ロータリアン」「ロータリーの友」等の雑誌に会員を如何に近づけるかという努力が大切であり、例会を中心とした修練、全員の参加の出来る余り経費のか、らぬ親睦等を心がけてほしい。

- ④**職業奉仕について** “お、ロータリアン—職業奉仕とは—”については大変おほめの言葉をいただき当クラブの面目を一新した気持であった。
 - ⑤**社会奉仕について** この項目についてはロータリークラブとライオンズ・クラブとの相違点についての適切なアドバイスがあり、特に社会奉仕についてのライオンズ・クラブ的な奉仕にならない様常に反省してほしい。また、インターアクト・クラブ及びローターアクト・クラブの提唱に当っては充分な準備の下に永続的な健全なものをつくる様に望む。
 - ⑥**国際奉仕について** ロータリーの国際奉仕については米山記念奨学会とロータリー財団が大きな柱であるが、R Iの趣旨は具体的な問題、事例に対しては、たとえそれが貧者の一灯たりとも積極的に取組む姿勢が大事であり、ポール・ハリス・フェローについても理解を求められた。
- 以上ガバナーとの懇談を終了するに当たり、当クラブは新しいクラブではあるが立派な指導者も得られ、立派な活動を行っており特に付言することはないが、次の点についてガバナーは要望された。
- ①ロータリーに対して不満である。それは夢や、理想を持っているから不満が生ずるのであり、これを一つ一つ解消したい。
 - ②幹事の仕事は重要であり、万全を期するため3人制とする。
 - ③一人一人が公平であること。
 - ④後継者の育成に努めること。後継者は前年度中の出来るだけ早い時期に。
 - ⑤ICGFは出来るだけ簡素に、例会を中心として、

以上が会長・幹事懇談会についての概要であります。ロータリーの概念についてクラブとしての修練、奉仕ではなく、建前は個人、個人の修練、奉仕（サービス）の集いがロータリークラブであるという認識をあらたにいたしました。

(文責 平尾副幹事)

私のロータリー手帖から (6) 中田ガバナーの公式訪問に想う

柴田 三郎

「中田さんは、北クラブに満足の意を表しておられた」と翌朝、成瀬分区代理から、また浅田幹事から「お蔭さまでホッとしています」と電話をいただいた。定めし越野会長も、重患が息を吹き返した時の、とまではゆかなくとも、ひと安堵のことであろう。公式訪問は、会社の株主総会のようなもので、自信はあっても、無事終ればヤレヤレとひと息つくのも人情で、幹部諸氏の心遣いはお察しに余りある。当クラブが事前にR I並びにガバナーに提出する、サマリー(クラブ要要)及び「集いて図る心はひとつ」のクラブ要覧を私は一読して、当事者のご苦勞の程を偲びつつ、これは立派だ、文句は聞かないで済むだろう。と思った。

新ガバナーの公式訪問が始まると、「今年のガバナーは……」と、その品定めがさきやかれる。こんな次第で、すでに私の耳に入った、あちこちの人々のうわさ話では、「中田ガバナーは、大変な横紙破りで……」との反発と雑音が入りまじって狙上にのぼっていた。

私は、中田さんとは5年前、同期の分区代理で、その人柄、行き方の或る程度は知っていた。かつての北陸銀行頭取で、言わばテンノウの座にあった人。富山きっての名門のお坊っちゃま、しかも齒に衣させぬ直情的な人であり、個性の強いワンマン型である。これが曲解の一因となっているのかも知れぬ。私も、この雲ゆきにいささかの不安と関心を寄せつつ公式訪問を迎えたのであった。

なる程、その例会は奇抜に始まった。自ら司会をかって出て点鐘を行い、壇上にソングのタクトを振ったり、新しいソングを披露し自ら歌い、唄わせたり、ピジターの紹介までも行ったり、更には、ガバナーの公式訪問に課せられている、いわゆる「感激を与えるスピーチ」を省略して、彼が国際協議会に渡米の際、自らカメラを駆使してのご自慢(?)の、スナップ写真80余点を場内いっばいに陳列、その説明に終始した。また、この日の食事は後半に繰り越して、自ら提供のビールで乾杯せしめたり、あれも、これも前例のないことばかり続いて例会を終った。まさに前代未聞、型破りのガバナー振りである。

この異変に私は、皆んなの反響を注視した。しかし、誰れ一人不自然に思わず、この奇異が奇異を感じさせなかったばかりか、何かしら新鮮な収穫をつかんだ様子であった。私には、この演出、天真瀾漫に振舞っている自信ある態度が強く印象的に映じた。「中田さん、一部の人は、大変な型破りだと、うわさしていましたヨ」と、私が水を向けると、彼は平然、即座に「そんな人こそ型破りなんだ」の答えが返って来た。この人らしい面目躍如。ロータリーのマンネリーと、旧体を打破し、新機軸を打ち出したい意欲と、野心が満々と身にみなぎっているのであろう。是非は別として何もかも、ご無理ご尤もの日本のガバナー(一部)は、R Iの役員たる權威を忘却して、受け売りの盲従者だ。と、きめつける人さえある時、この人は勇敢にして、ユニークな実演者であると言わねばならない。

さて、肝腎なのは、このあとのガバナーを囲んでの協議会(役員、理事、委員長出席)である。何が出るか、その成果は如何に。……果然、中田ガバナーの辯舌は熱をおび火を吹く展開である。しかし、聞きあきた「手続要覧」のむし返えしは出て来ない。事なかれのぬるま湯論も出て来ない。何もかも言い切るすさまじさである。曰く……①ライオンズとロータリーは根本的に違う、ライオンズは団体的奉仕であり、ロータリーは個人的奉仕を求める建て前である。従ってロータリーは、予算がなくてもクラブが成り立つ解釈も出来る。②例会は、ロータリーの喜びを得るムードづくりの場である。③食後の卓話は睡魔におそわれるので先にやってはどうか。④ロータリーは量より質である。質の向上は即、拡大につながるので敢えて無理な増員はすべきでない。⑤卓話のない例会もあってよい、自由に語り合うのも意義がある。⑥家族に対するロータリー教育も大事である、年4回以上の家族との親睦会を。⑦副幹事を2名置き、その1名は前幹事を配することによってスムーズなるクラブ運営が出来る。等々、齒切れのいいアドバイスが続出した。而して「私はロータリーの現況に不満がある。それはロータリーに理想を抱くからである」と、痛烈な言葉が最後に出て一同に感銘を与えた。

私は想う。ロータリーの現況に不満もなく、意見もなく、理想もなければガバナーは失格と言うべきであろう。ガバナーとなることは名誉である。されど単なる名誉職と考えられては困るのである。自ら求道の実践者であらねばならぬ。

私は希う。ガバナーを終わってからの中田さんに、一層期待し、旺んなる言動力を切望する。勇気ある勇ちゃん、意気軒昂のテツピン博士の益々なるご健闘をお祈りして止まぬ。

